

会 議 録

会議の名称	令和5年4月定例教育委員会		
開催日時	令和5年4月28日 15時15分開会 16時34分開会		
開催場所	つくば市役所本庁舎4階 会議室401		
事務局	教育局教育総務課		
出席者	委員	教育長 森田 充 委員 倉田 廣之 委員 柳瀬 敬 委員 和泉 なおこ 委員 成島 美穂	
	委員以外の出席者	教育局長 吉沼 正美 教育局次長 坂田 博之 教育局次長 久保田 靖彦 教育総務課長 山岡 めぐみ 学務課長 下田 裕久 教育施設課長 鈴木 聡 健康教育課長 柳町 優子 学び推進課長 岡野 知樹 特別支援教育推進室長 中島 澄枝 総合教育研究所長 山田 聡 教育相談センター所長 久松 和則 生涯学習推進課長 澤頭 由紀子 文化財課長 石橋 充 中央図書館長 柴原 徹 中央図書館副館長 沼尻 祐一 教育局企画監 青木 孝之	
公開・非公開	<input type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input checked="" type="checkbox"/> 一部公開	傍聴者数	2人
会議次第及び議事	1 開会 2 議事録承認 3 教育長の報告 4 案件		

	(1) 議案第 31 号 学校事務共同実施グループにおける総括グループ長及び総括副グループ長の任命について（非公開）
	(2) 議案第 32 号 令和 5 年度学校事務共同実施協議会構成員の指名について（非公開）
	(3) 議案第 33 号 令和 5 年度つくば市一般会計予算案（6 月補正予算）に同意することについて（非公開）
	(4) 報告第 15 号 臨時に代理した事務の管理及び執行の状況について（コミュニティ・スクール協議会委員の任命）（公開）
	(5) 報告第 16 号 臨時に代理した事務の管理及び執行の状況について（つくば市教育委員会職員の人事異動）（公開）
	5 その他
	6 閉会

◎会議の概要

1 開会	
森田教育長	つくば市教育委員会会議の令和 5 年 4 月定例会を開催いたします。総合教育会議に引き続き、本当にありがとうございます。スムーズに進行していきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。
2 議事録の承認	
森田教育長	初めに議事録の承認です。3 月臨時会及び 3 月定例会議事録は、委員の皆様事前に確認していただいておりますが、その後、さらに修正等がないようでしたら、議事録を承認することとしたいと思います。よろしいでしょうか。
委員一同	はい。
森田教育長	それでは内容を承認することとします。署名人ですが、臨時会分を和泉委員に、定例会分を成島委員にお願いします。よろしくお願いいたします。
3 教育長の報告	
森田教育長	今日は 2 点報告させていただきたいと思っております。 1 点目が新設校の開校の状況です。香取台小学校、それから研究学園

小中学校の開校式の際には、皆様にもご出席をいただきましてありがとうございました。3校とも順調にスタートを切っていると感じています。先日、研究学園小学校にお邪魔して授業を見せていただきましたが、落ち着いているという印象です。先生方も、新設校であることによる大変さもあるかもしれないですが、新しい学校を自分たちで作る、子供たちと作るという意欲に満ちた、生き生き感のようなものをすごく実感することができました。子供たちも本当にいい顔をして生き生きと勉強している感じもしました。校長先生とお話をしたところ、保護者の方々もすごく協力的で、登校等も心配されるものの、保護者の方々も協力して安全確保に努めてくれているということでした。これからはしっかり私たちも指導助言しながら、一緒に良い学校づくりに努めていきたいと思えます。

2点目が校内フリースクールの新設の状況です。詳しくは最後に各担当からお話をしたいと思えます。昨年度から実施している谷田部中・荃崎中・高崎中では引き続き通級者がいるというところです。谷田部中も担任・担当の変更はありましたが、スムーズに引き継ぎができて運営されているという状況です。荃崎中と高崎中においても、今年度配置された支援員が早速良い関係を作って、コミュニケーションをとりながら、一人一人に向き合っているという状況です。今年度新設の中学校については、小学校も含めて、周知を図るとともに、そのところを一緒に見に行くことを行っている状況です。入級の状況については、中学校は1人というところもあれば、5人ぐらいの子が入りそうだという学校もあるようです。指導支援員の方も、研修を行いながら、対応ができるように進めていきたいと思えます。ただ、22校がスタートしたわけですが、今のところ支援員は17人が決定しており、5校についてはまだ確保できてない状況です。面接を受ける人が出てきていますので、これからは随時募集していきたいと思えます。学校は定期的に不登校防止のための推進会議を開いて全校で支援する体制づくりに努めてくれているという状況だと思います。詳しくは最後にまた報告させていただきます。

ではここで令和5年度人事異動もありましたので、教育局の職員を改めてここで紹介させていただきたいと思えます。吉沼教育局長お願いします。

吉沼局長	(職員紹介)
森田教育長	本日は議案が3件と報告が2件です。いつものように、非公開案件を先に審議して、後に公開案件を審議することとしたいと思っております。議案第31号及び第32号は人事案件のために、議案の第33号は議会案件のために、非公開としたいと思っています。報告の2件については、公開ということで進めたいと思いますが、委員の皆さんそれではよいでしょうか。
委員一同	はい。
森田教育長	ではそのように進めさせていただきます。それでは、非公開の案件から進めたいと思いますので、傍聴人の方には一度退室をお願いしたいと思います。
(1) 議案第31号 学校事務共同実施グループにおける総括グループ長及び総括副グループ長の任命について (非公開)	
森田教育長	議案第31号について、教育総務課説明をお願いします。
山岡教育総務課長	(議案に対する説明)
森田教育長	何か質問はございますか。よろしいですか。では承認することとしてよろしいですか。
委員一同	はい。
森田教育長	では承認するものとさせていただきます。
(2) 議案第32号 令和5年度学校事務共同実施協議会構成員の指名について (非公開)	
森田教育長	議案第32号について、教育総務課をお願いします。
山岡教育総務課長	(議案に対する説明)
森田教育長	質問や確認事項がありましたらお願いします。よろしいでしょうか。

	では承認することにご異議ございませんか。
委員一同	はい。
森田教育長	では承認するものとさせていただきます。
(3)議案第 33 号 令和 5 年度つくば市一般会計予算案（6 月補正予算）に同意することについて（非公開）	
森田教育長	次に議案第 33 号、まずは教育総務課お願いします。
山岡教育総務課長	（議案に対する説明）
森田教育長	では次に学務課お願いします。
下田学務課長	（議案に対する説明）
森田教育長	次は教育施設課、お願いします。
鈴木教育施設課長	（議案に対する説明）
森田教育長	最後に健康教育課お願いします。
柳町健康教育課長	（議案に対する説明）
森田教育長	何か今のことで質問がありましたら、お願いしたいと思います。よろしいですか。
	（議案に対する質疑応答）
森田教育長	他はいかがでしょうか。よろしいですか。では承認することとしてよろしいでしょうか。
委員一同	はい。

森田教育長	では承認するものとさせていただきます。
(4)報告第15号	臨時に代理した事務の管理及び執行の状況について（コミュニティ・スクール協議会委員の任命）（公開）
森田教育長	非公開案件が終了しまして公開案件になりますので、傍聴人の方は入室をお願いします。では、公開案件に入ります。報告第15号について、生涯学習推進課をお願いします。
澤頭生涯学習推進課長	報告第15号臨時に代理した事務の管理及び執行の状況についてご説明いたします。代理した事務といたしまして、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第47条の5及びつくば市コミュニティ・スクール協議会に関する規則の規定による、コミュニティ・スクール協議会委員の任命になります。対象は吾妻学園で、任命した委員の名簿は別紙のとおりとなっております。任期は令和5年4月1日から令和6年3月31日までです。よろしくお願いいいたします。
森田教育長	はい。ただいまの説明に関して質問や確認事項がありましたらお願いします。はい。どうぞ成島委員。
成島委員	こちらは昨年度から継続されている方もいらっしゃるのですか。
森田教育長	はい。生涯学習推進課長。
澤頭生涯学習推進課長	全員ではございませんが、ほぼ継続となっております。
森田教育長	去年は推進会議だったので、推進委員という役職でしたが、今年度は正式に協議会になったので、協議会委員となっていて、去年推進委員だった方で協議会委員として継続している方も多いいということですかね。
澤頭生涯学習推進課長	はい。ありがとうございます。補足させていただきますと、協議会になりましたので、年数のカウントは改めて1年目となります。

森田教育長	はい。他はいかがでしょうか。よろしいですか。
委員一同	はい。
森田教育長	では、報告の通りとさせていただきます。
(5) 報告第 16 号 臨時に代理した事務の管理及び執行の状況について（つくば市教育委員会職員の仕事異動）（公開）	
森田教育長	次に報告第 16 号について、教育総務課お願いします。
山岡教育総務課長	報告第 16 号臨時に代理した事務の管理及び執行の状況についてご説明いたします。つくば市教育局職員の仕事異動について、報告書に記載の職員に対しまして、令和 5 年 4 月 1 日付けで臨時的任用期間の延長の発令をいたしました。当該職員につきましては、クラス担任 1 名が不在になる期間があり、それまではクラス担任を持つことができなかった、特別支援教育支援員という形で配置していたところを、クラス担任として保育をできるようにするために、令和 5 年 1 月 1 日付けで臨時的任用という形で人事発令を行っていた者です。今回引き続き、担任 1 名が不在になるため、その任期を令和 5 年 4 月 1 日から令和 5 年 9 月 30 日まで延長いたしました。以上です。
森田教育長	はい。ただいまの説明に関して質問確認事項がありましたらお願いします。よろしいですか。
委員一同	はい。
森田教育長	ではこの報告のとおりとさせていただきます。
5 その他	
森田教育長	委員の皆様から校内フリースクールの件について状況を伺いたいという申し出がありましたので、不登校児童生徒支援について、学び推進課から新年度の報告をお願いします。
岡野学び推進課長	先ほど教育長からお話があった以外の部分について現況をお話しさせていただきます。まず、今年度から新たに校内フリースクールが設置さ

	<p>れた中学校等は、今まで別室を登校していた生徒に学校から案内し、要望があったものについて、運営を開始しているところです。学校の実情にもよりますが、現在入級者は1人から5名程度と伺っております。各校とも支援員が丁寧に対応してくれていますので、継続的に通級になっているところです。また、現在も学校への問い合わせや入級を考えているご家庭等がありますので、今後、通級する子供は増えていく見込みです。また、義務教育学校等におきましては、後期課程生を中心に現在入級しておりますが、前期課程生の入級を考えているというケースも見られています。また、学校が広く、連絡が取りづらい等の課題のある学校では、支援員に校内だけで連絡がとれる手段としてPHS等を貸し出して、登校状況や学習状況をタイムリーに共有できるような工夫を行っているところも見られております。また、モデル校となっている小学校6校についてですが、現在正式な入級者は確認されておられません。しかしながら、相談をしながら、入級を考えているご家庭はあります。教室案内や、担当の支援員とのコミュニケーションを取りながら、Sルームが居場所となるような働きかけを行っている状況です。今後、入級が見込まれるケースが多いかと思えます。</p> <p>現在学び推進課では、Sルームの環境整備のために備品希望調査を行っています。各学校から挙げられた希望を取りまとめている段階です。また、支援員の配置については、5月1日に新たに配置する方も含め、5月1日時点で18名の配置となっております。支援員の配置のない学校は、残り4校となっております。今後の課題としまして、支援員の研修等の充実に力を入れて、支援員の実情に応じた対応をとっていただくと考えております。簡単ですが、以上です。よろしく申し上げます。</p>
森田教育長	<p>何か質問したいことがありましたらお願いしたいと思います。はい。成島委員お願いします。</p>
成島委員	<p>モデル校の学校名は出さない方がいいのでしょうか。</p>
岡野学び推進課長	<p>出しても大丈夫ですので、お示しさせていただきます。小学校は、谷田部小学校、大曾根小学校、荃崎第一小学校、荃崎第二小学校、荃崎第三小学校、香取台小学校の6校です。</p>

成島委員	ありがとうございます。
森田教育長	はい。他はいかがでしょうか。はいどうぞ。
柳瀬委員	支援員の研修については支援員の実情に応じて行うということですが、もう少し詳しく教えてほしいです
森田教育長	はい。学び推進課。
岡野学び推進課長	今のところはスタートしたばかりで見通しが立たない部分も多いかと思えます。先行実施していた高崎中学校で担当されていた先生を講師に、運営のあり方や支援の仕方等の基本的な部分は、全支援員に向けて4月当初に研修を実施したところです。今後実際に運営していく中で、子供へのケアや、対応のあり方等のご意見をそれぞれ伺いながら、ニーズに応じた研修の持ち方を検討していきたいと考えております。以上となります。
森田教育長	はい。よろしいですか。はいどうぞ。
柳瀬委員	検討会議の中で、校内フリースクールについては、今までのやり方をそのまま各学校に当てはめて良いのかどうかという議論がありました。その上で、講師を迎えての研修という形よりは、みんなで学習会を開いていくというイメージでやって欲しいと要望していました。支援員の実情に応じてというのは、つまりいろいろな問題を抱えているのであればそれについての対応策を考えましょうというスタンスだと思いますが、ニーズを待つのではなくて、情報交換や意見交換が必要だと思うのです。1回講演を開催して研修をしました、ではまだ不十分だと思います。そういう時間をどのような形で取っていくのでしょうか。
森田教育長	はい。学び推進課どうぞ。
岡野学び推進課	今おっしゃったように、研修のあり方については、対応を中心としつ

長	つ、皆さんで集まって、それぞれの悩みなど、随時情報交換をしてもらうというのも一つでございます。ただ、時間の確保につきましては、なるべく短いスパンでは考えていければと思うものの、勤務時間等もお子さんの実情に合わせている部分もあり、ある程度まとまった時間を取れるのは長期休業中等になるかと思われ、今後十分な検討は必要かと思っています。
柳瀬委員	スタート時が非常に大事だと思っています。場合によっては、民間に委託しているフリースクール等も交えて研究会のようなものを行ってもよいかと思います。1年に1回やりました、では少々不十分だと思います。支援員が自主的に行うのは難しいと思うので、学び推進課できちんと音頭を取って、もっと積極的にやっていただきたいと思います。
岡野学び推進課長	貴重なご意見ありがとうございます。
柳瀬委員	どのような形で行うか、次回の教育委員会で報告をお願いします。
岡野学び推進課長	はい。承知しました。
森田教育長	はい。和泉委員どうぞ。
和泉委員	去年の会議の中で、子供と先生、学校、保護者の連携がすごく大事だという話があったと思います。支援員がじゃあお願いしますねと放っておかれることが無いように、支援員と担任、支援を担当する学校の先生が勤務時間内で一日の活動や過ごし方について報告する時間を確保して連携を強めていく、このことを研修で盛り込む必要があるかと思いました。その場で10分でも必ず時間を取るような形が多分やりやすいのかなと思います。
柳瀬委員	今までの研修のような形で集まることは難しいとすると、30分ぐらい時間をきちんと取って、そこへ積極的に参加して情報を共有するなど、フットワークよく動かないと物理的に難しいかと思います。その辺りについて検討していただければと思います。せっかくオンライン会議が簡

	単にできる環境ですので、そのような場を設置したらどうでしょうか。
岡野学び推進課 長 森田教育長	はい、ありがとうございます。 時間の取り方をどうするかという点についても、学校でいろいろと探っていると聞いています。
岡野学び推進課 長	やはり連携は大事であると考えています。原則的に普通学級への在籍になり、学ぶ場が多様な場合はそちらで対応することになりますので、支援員さん任せには当然ならないということです。ですので、例えば中学校でいえば、担任が責任をもって、空き時間等に行き来したり、そこでの情報共有を図ったりといった、一対一のコミュニケーションは一日の中で時間を見つけることで、かなり可能な部分であるかと考えております。その部分をさらに今度は職員会議や放課後の時間に職員間で幅広く共有するような形で進めていると確認しています。
柳瀬委員	横の支援員同士の学習会はオンラインでもできるのではないのでしょうか。もちろん学校の中でも、かなり頻繁に情報交換をしないと駄目だと思いますが。
森田教育長	はい。和泉委員どうぞ。
和泉委員	はい。研修に関してもう一つです。このような子供たちに今までずっと向き合ってきた、むすびつくばライズ学園の経験と知見をぜひ生かして欲しいと思うので、特別に研修を実施してもらうとか、見てもらうとか、何かしらそういう連携をして欲しいと思っています。
岡野学び推進課 長 森田教育長	その部分についても十分検討して対応して参りたいと思います。 はい。久保田次長。
久保田教育局次 長	先日先方のご厚意により、校内フリースクールの支援員を対象にして開催いただきまして、5名の支援員が参加されたと伺っております。こ

	<p>れは施設計画も含めてですので、ハードソフト両方の面での研修であったと思います。むすびだけではなく、ここにこ広場もやっておりますし、つくしの広場といった公設のものもありますので、そういったところと連携して、進めていければと考えています。</p>
森田教育長	<p>26日でしたでしょうか。</p>
久保田教育局次長	<p>はい、一昨日の26日水曜日でした。</p>
森田教育長	<p>はい。はい。どうぞ成島委員。</p>
成島委員	<p>大曾根小学校がモデル校に入っていますが、何もまだ告知等がありません。私が見逃している可能性もありますが、スクリレでいろいろと資料が来るものの、校内フリースクールを始めたという案内はなかったような気がします。それは支援員等が整っていないからなのか、それとも相談に来た保護者等に声掛けをしているからなのか、各校でどのような状況なのかと思いました。</p>
久松教育相談センター長	<p>まず、Sルームのチラシは、学校の特性を生かしたものにしないといけないということで、大曾根小学校は今そのチラシの検討をしているところです。たたき台はこちらで出して示しています。中学校では今日上がってきた学校もあるので、チラシに関してはもう少し時間がかかるかと思っています。体制づくりをしている最中です。</p>
柳瀬委員	<p>Sルームの意味とは何でしたでしょうか。</p>
森田教育長	<p>はいどうぞ。</p>
久松教育相談センター長	<p>セーフ、セレクト、スペシャル、サポート、スペースです。</p>
森田教育長	<p>ハートフルSルームというのでしたね。校内フリースクールとはあまり言わないようにしようかということです。そのようなはっきりした名前ではなく、ハートフルSルームというのを基本名にして、呼称は各学</p>

柳瀬委員	<p>校でひまわりルームや夢ルームなど、名前を変えているかもしれないです。</p> <p>例えばフリースクールの中身についてお知らせする時に、ハートフルSルームとは何かをきちんと説明できますか。ハートフルSルームとは何ですかと言われたら、フリースクールですと説明するのですか。フリースクールという言葉であればある程度共通の理解は得られると思うのですが。</p>
森田教育長	<p>1回目は、校内フリースクールという言い方をしているのですよね。はい。どうぞ。</p>
久松教育相談センター長	<p>チラシの中に、Sの説明ももちろん入っています。簡単にではあるものの、活動の目的や内容が載ったチラシを作っております。そのチラシをたたき台に、先ほど申し上げたようにそれぞれの学校の特性を組み込んでいただいて、それぞれの学校で案内するという形をとっています。校内フリースクールという直接的な文言はここには入ってはいないものの、内容的にはそのようなものであることは理解できるかと思っております。</p>
柳瀬委員	<p>なおさらフリースクールをどのように位置づけるかとか、フリースクールの中身については議論が必要なところではないでしょうか。それを一応括弧に入れておいて、とりあえず進めましょうというように、どうしても見えてしまいます。ただ何となくわかります、ではなくて、校内フリースクールが何を意味しているかが大事であって、名前を変えることで何を狙っているのかを確認しておきたいですね。フリースクールと言わない方が良い理由は何ですか。</p>
森田教育長	<p>はい。どうぞ。</p>
久松教育相談センター長	<p>すみません、訂正させていただきます。チラシを読ませていただきますと、4月からハートフルSルームが始まります、ハートフルSルームとは校内フリースクールのつくば市としての総称です、と最初に説明を</p>

柳瀬委員	<p>入れておりますので、校内フリースクールということは理解できるかなとは思いますが。</p> <p>そうしますと、そのフリースクールは、どのようなふうにとらえていますかとは当然言われますよね。支援員の間ではその共通理解はできているのですか。</p>
森田教育長	<p>その下も読んだら良いのではないのでしょうか。</p>
久松教育相談センター長	<p>はい。まず共通理解というところでは、4月5日に支援員と学校の担当者を集めて、市としての校内フリースクールはこのようなものだというのをしっかりとお伝えしました。ただ、小学校に関しては、中学校モデル校の事例などを聞いていても、中学校と同じようにはいかないところがあるのではないかという意見もありました。それぞれの特性やニーズを把握して生かして進めていってほしいと、研修で伝えさせていただきました。また、どのような場であるかについては、まず一つ目として心を落ち着かせる場であるということ、二つ目として児童生徒の社会的自立を目指した自己決定の場であるということ、三つ目としてやってみたいことや学びたいことができる場であるということ、四つ目として繋がる場であるということ、案内に入れております。</p>
森田教育長	<p>はい、どうぞ。</p>
柳瀬委員	<p>時間割をどうするか、どのような形で参加できるか、Sルームを利用する対象はどのような子供を想定しているのか、その辺りは案内には書いてあるのでしょうか。</p>
久松教育相談センター長	<p>すみません、そうしましたらチラシをコピーしてお渡しさせていただきますと思います。</p>
柳瀬委員	<p>そうですね、すごく大事なところだと思います。Sルームという呼び名にしました、フリースクールです、と書いてあるというだけでは、中身がよくわかりません。しかも、それが今までの特別支援クラスとは</p>

	<p>違うものであることも周知して理解してもらわないといけないので、簡単ではないような気がします。そういうこともあって、学校も告知するのに躊躇しているのではないのでしょうか。</p>
久松教育相談センター長	<p>学校が一番懸念しているのは、例えばいろいろな目的の方が集まることによって、その場で心を落ち着かせることや、居場所として過ごすことができなくなってしまうことです。その場がどのようなものなのか、というところをしっかりと練りたいという話はしておりました。その辺りで少し時間がかかっているというのはあるかもしれません。</p>
和泉委員	<p>よろしいですか。</p>
森田教育長	<p>はい。どうぞ。</p>
和泉委員	<p>誰が対象なのかがよくわからないと思いました。長い間学校を休んでいた子供が対象なのか、普通に学校に通っていた子供も対象になるのか、その説明もすごく大事かと思いました。自分の子供がここに行って大丈夫なのかどうか、案内を受け取った保護者があまりわからないと思いました。</p>
倉田委員	<p>校内フリースクールに対する認識が保護者にどれだけあるか、でも違って来るかもしれないですね。</p>
和泉委員	<p>多分手紙を渡すだけだと難しいのではないかという気がしています。そもそもなぜこのようなものを作ろうとしたのか、どのようなものを想定しているのか、それを総会の場なり、何かしら校長先生から全保護者に向けて話す機会が必要な気がします。この手紙だけでそこまで読み取るのは、難しいのではないのでしょうか。そもそも私たちが提供したかったのは、行き渋りの子供や長期欠席している子供のための場であって、その子供たちが行こうと思うかがすごく大事だと思います。</p>
森田教育長	<p>個別には案内をしているわけですよ。まずは個人的にどうですか、と話しているということです。ですので、これは教室に行きにくくて躊</p>

	<p>踏っている子供に、こういった教室もあることを個別に話をした上で、さらに全体にこういった部屋があることを認識してもらうためのお知らせだと思います。あまり広げ過ぎて、ここに行っている子が特別な子だという認識をされるのも嫌なのですよね。ですので、こういった部屋もあるというのが、まず全体の認識になった上で、必要な子供たちには個別にもお話をしながら、うまく活用してもらえようようにできればというところで、今は進める過程の中の一つだという感じですかね。はい倉田委員どうぞ。</p>
倉田委員	<p>やはり個別に適切に対応していく必要があると思います。それぞれの子供にどのように働きかけるかという点については、状況を把握している学校が保護者や本人に説明していくことがまず大切だと思います。また、校長が総会等で一般の保護者にも知らせることも大切だと思います。学校がその辺りのメリハリをつけつつ、基本は個別対応が一番かとは思いますが、不登校になっている状況が個々で違って、ケースバイケースですので、状況に合わせて適切に助言していくことが必要かと思います。そして、本人がここに来てどのように活動するかというのを、まず自分でしっかり持つことが大切だと思います。考え方をしっかり本人が持って、ここに来ることが何よりだと思うのですよね。</p>
森田教育長	<p>やはり小学校の方が少々難しいところがあります。中学生は勉強したいと思って来る子が結構多いですが、小学生はどちらかというとクールダウンしたりとか、例えば少し友達と喧嘩してしまったりして上手くいなくなったり、少しここに行きたいとか、そういう方向が多くなるのかなという感じはしています。中学校の事例をそのまま小学校で活用するのはなかなかできないかなという感覚があり、やはりモデル校でスタートするのがよかったなとは思っているところです。</p>
柳瀬委員	<p>校内フリースクールというのが、ハートフルSルームになったということについては、イメージと違うと感じました。フリースクールというある種の受け皿のようなものが共有してあって、フリースクールの使い方を示して、どうぞ使ってくださいというものかと思っていました。個別対応できる部屋があります、良い場所がありますということであれ</p>

	<p>ば、教育相談の延長線上に居場所となる部屋を設けたような形という印象を受けました。そうすると支援員は個別対応をとにかくしっかりしていくことにいまは終始していて、校内フリースクールという場所で子供たちがある程度しっかり勉強していく体制を取るところまではいかないだろうと思いました。校内フリースクールで何をしましょうという議論は現時点では少し置いておいて、対象になる子供たちに、特別支援クラスではなくて、保健室のような部屋が一つあって、そこにいる先生が面倒を見てくれる、そういう場所がありますよと示す感じかと思えます。その先で、支援員がルームで具体的に子供たちにどのようなことをおこなっていくのかを模索していくのかなど。つまり保健室の代わりのようなものでしょうかね。そうすると支援員の考え方云々ではなくて、とにかく子供にまず対応するという状況なのかもしれません。でもそれがずっと続いていくと、校内フリースクールといえるのかという話におそらくなると思います。</p>
森田教育長	<p>目指すところはやはり校内フリースクールなのですよ。とにかくいまはスタートを切ったところで、みんなが思っていることがこれから実現されることが大事だと思いますので、これについては随時報告しながら、またいろいろなご意見いただいて、段々と理想に近づけていくのが大事かなと思います。定期的に報告を入れながら進めていきたいと思えます。</p>
柳瀬委員	<p>一時避難場所という場所はとても必要なものだと思います。一度心を落ち着けることができた後の話を今はしました。ルームという形は、まず導入としてはありかと思えます。</p> <p>ほかの不登校支援の執行状況はどのような形になっていますかね。施設支援や個人支援の要綱がまずできたのかどうか、そしてどのような形それを公表するのかをまだお伺いできていません。</p>
久松教育相談センター長	<p>支援については大分固まってきており、本当に最終段階に入っているところかと思えます。保護者への支援に関しては、4期に分けて支援をしようかと考えております。4月からさかのぼって申請していただく形になるかとは思いますが、体制を構築しているところで、もう少々時間</p>

柳瀬委員	<p>がかかりそうなどころではあります。法務課などとも相談して進めております。</p> <p>公表するのはいつごろを想定していますか。</p>
久保田教育局次長	<p>まず、施設運営者向けの補助については、おそらくゴールデンウィーク明けのタイミングで公表という形になるかと思っております。市内の民間フリースクール等とのネットワークもありますので、そういったところには直接お知らせする予定です。また、個人向けの補助については、先ほど久松参事からあったとおりですが、5月中には公表したいと考えており、さかのぼって4月からという形の申請になるかと思っております。施設運営者向けの補助につきましては、おそらく概算払いという形で申請いただいた1ヶ月後ぐらい、6月や7月の頭に一旦概算でお支払いして、年度末に最後精算するというイメージです。</p> <p>個人向けの支援については、四半期に1度とするのか、4ヶ月に1度とするのかという点は最終的に調整しますが、4・5・6月分、或いは4・5・6・7月分という形で第1期目にお支払いして、その同じ月数で年に3回ないし4回お支払いしていくというようにイメージしています。</p>
柳瀬委員	<p>施設要件の審査については、ある程度もう固まったわけですか。</p>
久保田教育局次長	<p>要件はある程度もう固まっております。文言の最終調整をしている段階です。</p>
柳瀬委員	<p>施設支援についてはゴールデンウィーク明けには公表するようなスケジュール感ということですね。大変でしょうが、どうかひとつよろしくをお願いします。</p>
久保田教育局次長	<p>これにつきましても都度報告はさせていただく予定でおります。よろしく願いいたします。</p>
森田教育長	<p>はい。ではこの件はよろしいですか。定期的に報告できるようにして</p>

和泉委員	<p>いきたいと思っていますので、今後ともよろしくお願いします。</p> <p>では最後に和泉委員からコミュニティ・スクールの研修についてご報告をいただけるということになっておりましたので、お願いしたいと思いますがよろしいでしょうか。ではお願いします。</p> <p>お時間を頂きありがとうございます。2月に霞ヶ関で行われた全国教育委員会の研修に参加しました。分科会が三つあって、私はコミュニティ・スクールの取り組みの分科会を選びました。同じグループにはほぼ同じ規模の自治体が多く、埼玉県深谷市、埼玉県ふじみ野市、東京都墨田区、東京都北区の教育委員会と同じグループでした。この四つの中で一番先駆けて取り組んでいたのが、埼玉県深谷市です。教育委員の方が非常に熱心に説明をしてくれました。他の3つの自治体はまだ始めたばかりという感じでした。深谷市の話聞いていて、すごく大事だと思ったことが五点ありました。一つ目は、まずコーディネーターの存在です。この存在なしでは立ちいかないぐらいで、地域と学校をつなぐコーディネーターの役割の重要性を聞きました。深谷市の場合は公民館の館長がやっていると言っていました。地域によってやり方はそれぞれだと思いますが、先ほどの吾妻学園では表の中ほどに書いてあった方がコーディネーターになるのかと思ったのですが、おそらくこの方のやり方なり理解がすごく左右するような気がしています。二つ目は、各学校や地域の独自性をどれだけ生かせるかです。深谷市の場合は渋沢栄一の出身地ということで、非常に愛着があるというか、地域を愛する人々が多い印象を受けています。なぜこれが大事なのかというと、関わる人たちが自分の地域を良くしたいという気持ちが無いと、ただ組織化して終わってしまうことをすごく感じたからです。深谷市の場合は、「ふるさと先生から学ぶ」と名付けて、その場でコーディネーターを中心として熟議をしていく形で進めています。「ふるさと教育」を掲げるぐらいにふるさとへの思いを共有している印象でした。三つ目が長期的な視野で進めるということです。深谷市では五、六年かけて進めてきています。つくば市でもそうでしたが、始めることとなってから1年間時間を取って、今年から吾妻学園が本格的に始動する状況ですが、そのようにステップを踏んで進めていく考え方がすごく大事だと思いました。四つ目が生徒の参加です。深谷市からは具体的な話はありませんでしたが、</p>
------	---

	<p>文部科学省のコミュニティ・スクールの説明の中で、コミュニティ・スクールにおいて児童生徒が意見を述べる機会を設けるなどの取り組みとして事例が挙げられていました。これは総合教育会議でずっと話し合っている、主体性にも非常に深く関わることであり、児童生徒や子供の自己決定なり自己意見表明をする機会として非常に重要だと思いました。五つ目は、担当する先生だけではなく、学校の全職員がコミュニティ・スクールとは何かということを理解すること、そして地域への周知をどれだけ徹底させられるか、いかに地域の人たちを巻き込めるか、ということです。深谷市の場合は自治会も何かすごく強い繋がりがあるようで、自治会が自分たちで作っていきこうという機運がすごく強いということでした。教育行政の方から一方的にやってくださいという形にならないためには、とにかく理解と周知に非常に時間をかける必要があるし、そんなに形式ばったものでなくて良いと思うので、ただ会って話すという機会を多く設けることが非常に重要だと感じました。ですので、五つの点について進めていくには、過程の中で熟議という言葉が何回も聞かれたのと、あとは地域への愛着をどれだけかき立てることができるか、つくば市の場合は本当に地域差が大きいと思うので、それぞれ関わる人たちがそれぞれの方法でやりたいようにやれるような、自由裁量度をどれだけ確保できるのかも大きいのかと思いました。必ずしも吾妻学園の手法が他の学園にとってベストではないと思いますし、そこは自分たちがやりたくなるような楽しさを持ってもらえたらうまくいくのではないかと思います。はい。以上です。</p>
森田教育長	<p>はい。ありがとうございました。逆に何か委員にお聞きしたことでお聞きしたいことがありますか。</p>
柳瀬委員	<p>コーディネーターが大事だということでしたが、吾妻学園の場合はどなたになるのでしょうかね。</p>
和泉委員	<p>13番の長屋さんですかね。</p>
倉田委員	<p>彼はずっと関わっていますからね。私が校長の時にはPTA会長でした。</p>

成島委員	コミュニティ・スクールは学園単位ですよ。学校単位にはなりえないですか、今後。
森田教育長	生涯学習推進課長どうぞ。
澤頭生涯学習推進課長	つくば市では学園単位での導入を進めております。つくば市の教育が小中の一貫教育で、9年間の連続した学びということで進めておりますので、そういったことを踏まえまして、つくば市では学園単位で進めて参ります。
森田教育長	小中学校で分科会のような下位の組織を作ろうという話も出ているのでしたかね。特には無いのでしたかね。
澤頭生涯学習推進課長	部会という制度を箱としては設けてあります。それはいろいろと使い方がありまして、小学校単位でやっていただくこともあり得るかと思えますし、あとは祭りですとか、ボランティア活動など、そういったことについて部会で活動をしていただくことも想定しております。
森田教育長	学校単位の部会の活動もあって、全体の活動もあるということですね。 はい、どうぞ。
柳瀬委員	社会福祉の動きとしては、中学校単位でいろいろな受け皿を作りなさいというのがあります。例えば包括支援センターは、中学校単位に一つというのが前提だったのです。筑波地域包括支援センターの場合は、豊里中学校と大穂中学校が一緒になって、二つの中学校単位で地域包括支援センターが一つという形になっていますが、本当は中学校単位が福祉の単位でもあるのですよね。それを考えると、コミュニティの枠が中学校単位になるのかなとは思いますが。ただ、秀峰筑波義務教育学校のように大きくなってしまうと、なかなか意思疎通は難しいだろうとは思いますがね。

成島委員	和泉さんが言っていたとおり、つくば市は地域差がすごいから、昔からの人達がいるところほどいろいろと難しそうな気がします。
和泉委員	むしろ地域愛があって、あっちの住民は違うというような意識がすごいこともありますね。
柳瀬委員	それは倉田委員に聞いてみましょう。
倉田委員	最初はまとめるのは大変でしたが、やはり地域は同じ意識でまとめることが大切ですので、そういった組織づくりをすることが何よりなのです。そのような意識を育てることが一番です。ですので、統合したら統合した地域が一つの地域だということをみんなに植え付けることが大切ですし、みんなでどうするかということも協議して行って、もう前のことについては一切言うてはいけないと私は思うのですよね。でも、つくばの場合には、柳瀬委員が言ったように基本的に中学校単位ですよね。中学校に上がってくるのがその地域の小学校の子供ですので、当然一番理にかなっていますし。ただ、あまりにも拡大し過ぎた場合には、それをどのように包括するかについては工夫が要ると思うのですが、秀峰筑波義務教育学校にしても、統合したところは文化が極端に違うわけではないので、何とかやれると私は思っていました。
和泉委員	逆に新設校のエリアがすごく難しい気がします。何をもって繋がれば良いのかがわかりにくいですし、PTAのように義務ありきになってしまわないかなど。やりたいという気持ちを持ってもらうところが鍵になるかと思います。
倉田委員	そこの地区の特色は何かということ进行分析する必要があると思います。吾妻地区は何が一番メインに押し出すべきなのか、竹園地区は何が一番素晴らしくて、アピールできるのか、そういうものをみんなで持ち寄って、情報を出し合って作り上げていくことが大切で、それにはそれなりに楽しみがあるのですよね。ですので、新しいところが非常に難しい。まだ吾妻地区や竹園地区には伝統があるのですよ。ところが、香取台や研究学園のような全く新しい住民だけの組織となると、そこにどの

柳瀬委員	<p>ような地域的資源や人的・物的資源があるかを探り当てるには、なかなか大変な苦勞があると思うのです。その辺りについて、どのようにすると早く情報を得られるかは、何か工夫しないと難しいかと思います。</p> <p>話し合うテーマについても、コミュニティ・スクールによって違ってくるわけですね。基本的にこういったことを話し合ひましょう、というものは共通であるのですか。</p>
森田教育長	はい、どうぞ。
澤頭生涯学習推進課長	<p>柳瀬委員がおっしゃったのは熟議のテーマのことでよろしいですかね。その点も学校に任せています。学園でどういった子供たちを育てていきたいのか、というところに行き着きまして、吾妻学園ではこういったところが足りないよねというところもお話にありました。また、別のところでは、こういったところを伸ばしていきたいよねというところを、熟議によってみんなで共通理解を図るということになっています。一律に絶対にこのことについて話してもらおう、というようなことではありません。</p>
森田教育長	吾妻学園を見ていると、本当に熟議が大事だということをすごく感じました。みんなで議論しているのがいいなと思いました。
柳瀬委員	熟議という言葉を使うわけですね。
森田教育長	<p>そうなのですね。それがキーワードになっていますね。地域が新しいから難しいとも一概にも言えないのかもしれないとは思っていましたが、竹園の初期の頃に私は勤め始めたのですが、新しいからこそみんながこの町を作っていこうというような、そういった気持ちが盛り上がる部分もあったようにも思います。ですので、逆にこのコミュニティ・スクールという一つの組織をみんなでやろうということが、さらにそういう方向を進める起爆剤になるところもあるので、とにかくコミュニティ・スクールをしっかりとやっていくことが、子供たちの育ちに繋がっていくのではないかと、そうありたいなと思っています。逆に古い地域で</p>

	<p>はプライドがありますからね。それをうまくまとめるのもまた大事だと思います。それぞれ難しさは違うと思うのですよね。その難しさが違うところで、コミュニティ・スクールというものを核にしてうまく進めていくようにしたいと思っています。</p>
柳瀬委員	<p>教育委員はどのような形でコミュニティ・スクールに関わればいいのでしょうか。教育委員会の定例会に出てきた話をお伺いしていればいいのでしょうか。例えば倉田先生は、コミュニティ・スクール協議会委員になっていますが。</p>
倉田委員	<p>私は校長会で頼まれて竹園東地区のコーディネーターになりましたが、そこで秀峰筑波義務教育学校には行かないでくれと言われました。私は秀峰筑波義務教育学校にも関わりたいので行きたいのですがね。</p>
柳瀬委員	<p>そういった関わり方もあり得るということですね。</p>
森田教育長	<p>いろいろと報告しながら、全体のアドバイザーという形でアドバイスをいただきたいとも思いますし、関われる部分は関わっていただければと思います。</p>
柳瀬委員	<p>スーパーバイザー的な役割なので、そのような立場を取るのが良いかと思うのですよね。コミュニティ・スクール協議会のスーパーバイザーという形はおそらくないのですよね。</p>
森田教育長	<p>その組織はないですね。</p>
柳瀬委員	<p>組織には監事も必要でしょうし、幹事も本当は必要なのですよね。</p>
和泉委員	<p>コーディネーターをスーパーバイズするということですか。</p>
柳瀬委員	<p>そうですね、コーディネーターは当事者の1人で、スーパーバイザーではないですからね。教育委員はスーパーバイザーの立場だと思いますので、いろいろなところで問題が発生した時には、報告を受けてアドバ</p>

<p>森田教育長</p> <p>委員一同</p> <p>森田教育長</p>	<p>イスすることになりますかね。組織規則のようなものには書いてないですかね。</p> <p>書いてはいませんね。組織に関する記載の中で、教育委員会はそこまで強く出ていないですかね。ただ、そのような立場であることは確かだと思います。</p> <p>はい。いかがですか。よろしいでしょうか。</p> <p>はい。</p> <p>本当に教育大綱の中で、一つの大きな柱でもありますので、私としてもこれをきちっと進めていきたいと思っています。今後とも皆様のご協力をお願いしたいと思います。倉田委員には委員として、またコーディネーターとして大切な役割ですがよろしくお願いします。</p>
<p>6 閉会</p>	
<p>森田教育長</p>	<p>では時間も参りましたので、以上をもって終わりにしたいと思います。どうもありがとうございました。</p>

◎会議録の調製

<p>調製年月日</p>	<p>令和5年(2023年) 5月22日</p>
<p>調製者</p>	<p>吉沼 正美</p>